6-24　実践協力校における実践
事例㉔　逗子市立沼間中学校（３年・社会［公民的分野］）
「現代の民主政治と社会～政治家にインタビューをしてみよう～」

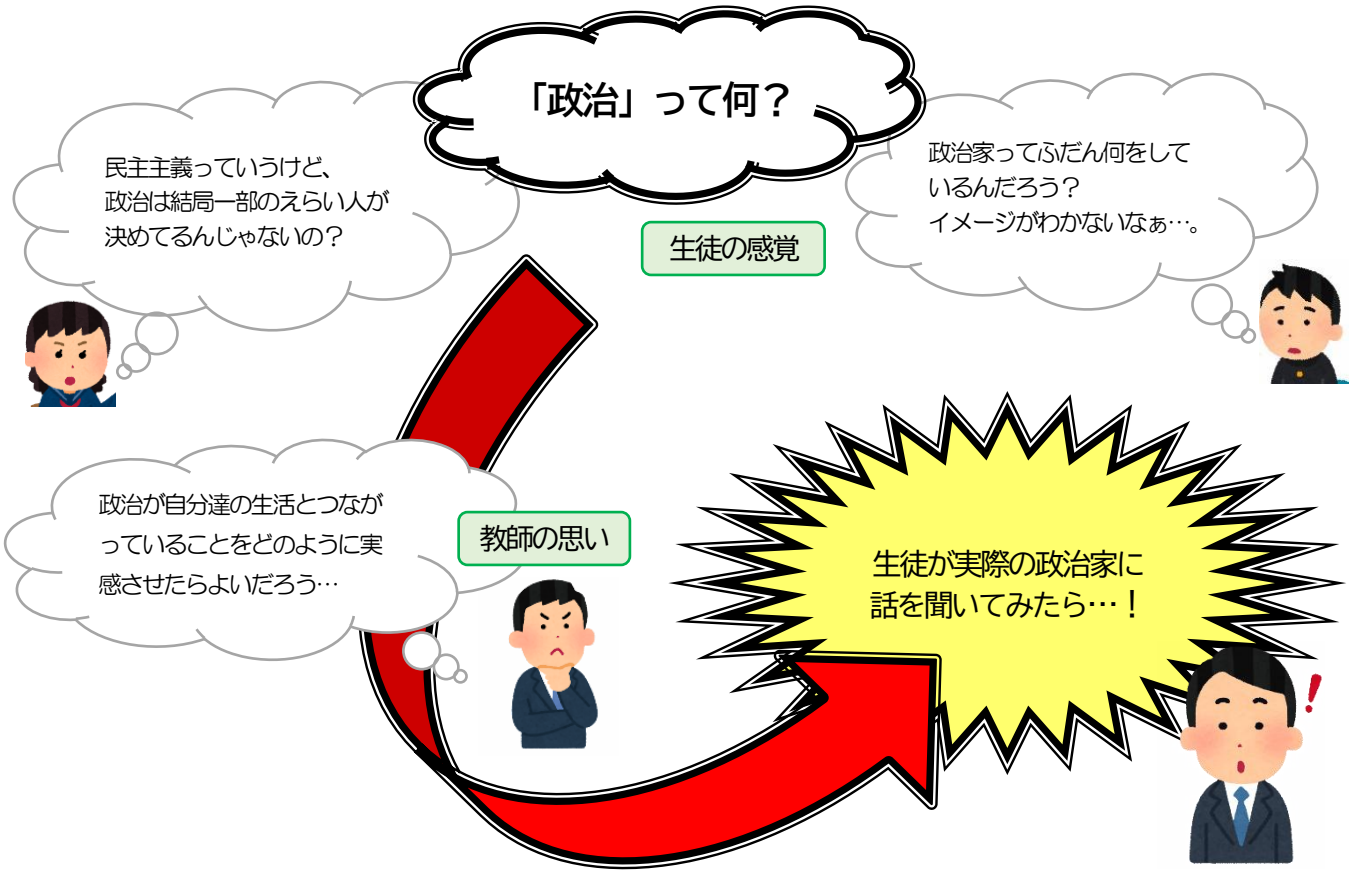
ポイントになる主な学びのプロセス

- **自分の身の周りのできごとに関心をもつ**
- **様々な考えから、自分の考えを構築する**

Ⅰ　学校全体における取組

学校教育目標	個（個性を生かす）・心（豊かな心を育てる）・力（たくましく「生きる力」を育てる）
めざす生徒像	・より豊かに生きようとする力を持った生徒 ・自己肯定感を持ち、他者と協調・協力し、課題を解決しようとする生徒 ・将来像を描き、主体的に行動・判断ができる生徒 ・『大人になる』ための自立を目指す生徒

第３学年の社会科（公民的分野）で、生徒が「自分達とは遠い存在」と感じている政治のことや社会の動きに関心をもち、主体的に社会に関わろうとする態度を養うため、実際の政治家を学校に招き、生徒がインタビューを行う取組を行った。



Ⅱ　単元のおもな流れ

1．単元名　　現代の民主政治と社会

2．単元の目標

・議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解すること。【知識及び技能】

・民主政治の推進と、公正な世論の形成や、選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。【思考力、判断力、表現力等】

・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割に関心をもち、主体的に社会に関わろうとする態度を養うこと。【学びに向かう力、人間性等】

<table>
<tr><td></td><td>ねらい（◇）・おもな学習内容（◆）</td></tr>
<tr><td>第１時
本時①</td><td>◇政治について関心をもち、社会的事象を多面的、多角的に見ることができるようになる。
◆「政治とは何か？」について、疑問やわからないこと、質問してみたいことを考える。
※詳細は「Ⅲ　授業の様子①「政治家に質問したいことを考えよう」</td></tr>
<tr><td>第２時
～
第17時</td><td>◇政治に関する個別の知識を習得しながら、多面的・多角的に考察する等の活動を通して、学習内容と自分たちの身近な生活のつながりに気付き、政治に対する自分の考えを構築する。
◆おもな学習内容（項目）
・民主主義とは？
・選挙の意義としくみ
・政党の役割
・マスメディアと世論の役割
・国民の政治参加
・国会の地位、しくみ、法律や予算の成立
・行政の役割と内閣のしくみ
・国会と内閣の関係
・裁判所のしくみとはたらき
・裁判の種類と人権
・地方自治のしくみ
等</td></tr>
<tr><td>第18時</td><td>◇政治家へのインタビューにむけて、これまでの学習を踏まえて質問のブラッシュアップ（再構築）を図る。
◆仲間との意見交換等を踏まえて、第１時で自分が考えた質問を見直し、当日行う質問を再検討する。

</td></tr>
<tr><td>第19時
本時②</td><td>◇政治に対して関心をもち、様々な考えから自分の考えを構築することができるようになる。
◆政治家にインタビューする。
※詳細は「Ⅲ　授業の様子②「政治家にインタビューしよう」</td></tr>
<tr><td>第20時
（翌日）</td><td>◇政治家へのインタビューを振り返り、政治に対して様々な考えから自分の考えを再構築する。
◆誰にどのような質問をして、どのような回答を得たかを生徒同士で共有し、政治に対しての理解をさらに深める。</td></tr>
<tr><td>第21時</td><td>◇本単元で学んだことを多面的・多角的に考察し、表現する。
◆単元の学習を振り返る。</td></tr>
</table>



「政治とは、『・・・・・・・』ということだと思う！」



Ⅲ　授業の様子

①　本時①「政治家に質問したいことを考えよう」

○　本時の目標

資料を基に、疑問やわからないこと、質問等を考えることで、政治に対して関心をもち、様々な考えから、自分の考えを構築することができる。

○　本時の展開

<table>
<tr><th>過程</th><th>活動の流れ</th><th>ポイントになる
学びのプロセス</th></tr>
<tr><td>導入
政治のイメージについて意見交換する</td><td>「政治」とは何か、それぞれのイメージを話し合おう
・政治のイメージについて、カードを使いながら意見交換する。
政治は国民が協力して行っていくものだと思うからこのカードにしたよ。

国民主権っていうけど、本当に国民が中心の政治になってるのかな？
＜カードの活用＞
人やもの、風景など、様々な写真のカードから、「政治」のイメージを連想するものを選び、政治のイメージやカードを選んだ理由をグループ内で意見交換し、お互いの考えを共有し、関心を高める。</td><td>ポイント1
<u>自分の身の周りのできごとに関心をもつ</u>
生徒それぞれがもつ政治のイメージを共有することで、政治への関心を高めます。</td></tr>
<tr><td>展開①
政治家への質問を考える

展開②
個人で考えた質問をグループで共有する</td><td>政治家への質問を考えよう
・事前に政治家から送られた「政治とは何か？」というアンケートへの回答や個人の興味・関心を基に、質問や疑問等を考える。【資料１、２】

○さんの回答は、私と似ているかもしれないな。反対に▲さんの回答は考えたこともなかったな。どうしてそう考えているんだろう？
●さんが言っている「権利を分配する」って、一体どういうことなんだろう…？当日質問してみようかな。

考えた質問を仲間と共有しよう
・４～５人のグループに分かれて、それぞれが考えた質問や意見を共有する。
政治家を目指したきっかけや、政治家が普段どんな生活をしているのかを聞いてみたいな。


若者の投票率の低さが問題視されているけど、なぜ投票率が低いのか、政治家の人たちがどう考えているのかを聞いてみたいな。</td><td>目指す子どもの姿
・資料や他者の意見を参考に政治についてのイメージを多面的にもつことができる。</td></tr>
<tr><td>まとめ</td><td>・本時の学習内容を振り返り、端末に入力する。</td><td>振り返りの記述から、政治について自分の考えを構築しているか。</td></tr>
</table>

ポイント1

生徒一人ひとりのもっている政治のイメージが表出するように促す工夫

政治に対して抱くイメージの変容を知るため、授業者は、単元の導入として、「自分がもっている政治のイメージ」を写真カードを用いて、グループで話し合う場面を設定しました。生徒は、既習の知識や日常生活の中で得た「政治とは何か」というイメージを伝え合うことで、政治についての関心をもつとともに，自分とは異なる「政治のイメージ」に触れ、その捉え方が多様であることに気付きます。

この活動は単元の終末にも行われ、生徒は導入時との意識の変化に気付くきっかけとなりました。

② 本時②「政治家にインタビューしよう」

○ 本時の目標

政治家から話を聞き、疑問やわからないことを質問することで、政治に対して関心をもち、他者の様々な考えから、自分の考えを構築することができる。

○ 本時の展開（２時間扱い）

<table>
<tr><th>過程</th><th>活動の流れ、指導上の留意点</th><th>ポイントになる学びのプロセス</th></tr>
<tr><td>展開①
政治家の話を聞く</td><td>政治家の考える「政治とは？」を聞いてみよう
・授業のねらい、流れを全体で共有する。
・グループに分かれて政治家から話を聞く。

政治家
（政治家の言葉より）
･政治とは貧富の格差をなくすためや、よりよい社会のための仕組みをつくるためのプロセスのこと。
･自由を保障するために大切なことが民主主義。たとえば生徒会による学校の自治も一つの政治のかたち。
※グループをローテーションし、１人の生徒が２人の政治家の話を聞くようにする。⇒同じテーマでも政治家によって視点が異なることに気付く。</td><td></td></tr>
<tr><td>展開②-1
政治家にインタビューする</td><td>政治家にインタビューしてみよう
・インタビュータイムを設け、生徒が各自で質問する。
→政治家に対する好奇心から、政治そのもの（これまでに学んだこと）に対する興味・関心へと移行するように促す。

多数決で少数派の意見も尊重するにはどうしたらよいと思いますか？
「民主主義イコール多数決ではない」という思いを共有することが大切だと思います。


「衆議院の優越」が認められているのに、参議院は必要だと思いますか？
必要ないという意見もあるし、日本と違ったしくみの国もあります。2つの議院で話し合うのは大事な内容をより多くの人でじっくりと議論するためだから、必要と考えています。
</td><td>目指す子どもの姿
・積極的にインタビューを行うことができる。
・複数の政治家の意見を聞き、政治について多面的に捉えることができる。</td></tr>
</table>

展開②-2	※インタビュータイムを２回に分け、質問した内容を生徒同士が共有することで、後半の質問を再度考える。 ・インタビュータイム（後半） →前半の政治家の回答や生徒同士で共有したことを踏まえて質問する。 	**ポイント2** **他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する** 政治家の考えや仲間の意見に触れることで、問いに対する自分の考えを再構築していきます。
まとめ	・端末に学習の振り返りを入力する。 ①政治家への質問と回答（誰にどのような質問をして、どのような回答を得たか） ②この時間に学んだこと、新たに分かったこと等	振り返りの記述から、政治について関心をもち、自分の考えを再構築しているか。

○　授業後の生徒の感想（抜粋）（「この時間に学んだこと、新たに分かったこと、気付いたこと等」）



政治に対する考え方だけでも様々であり、それぞれの価値観というのを尊重していきながら議論することが大切だと思った。

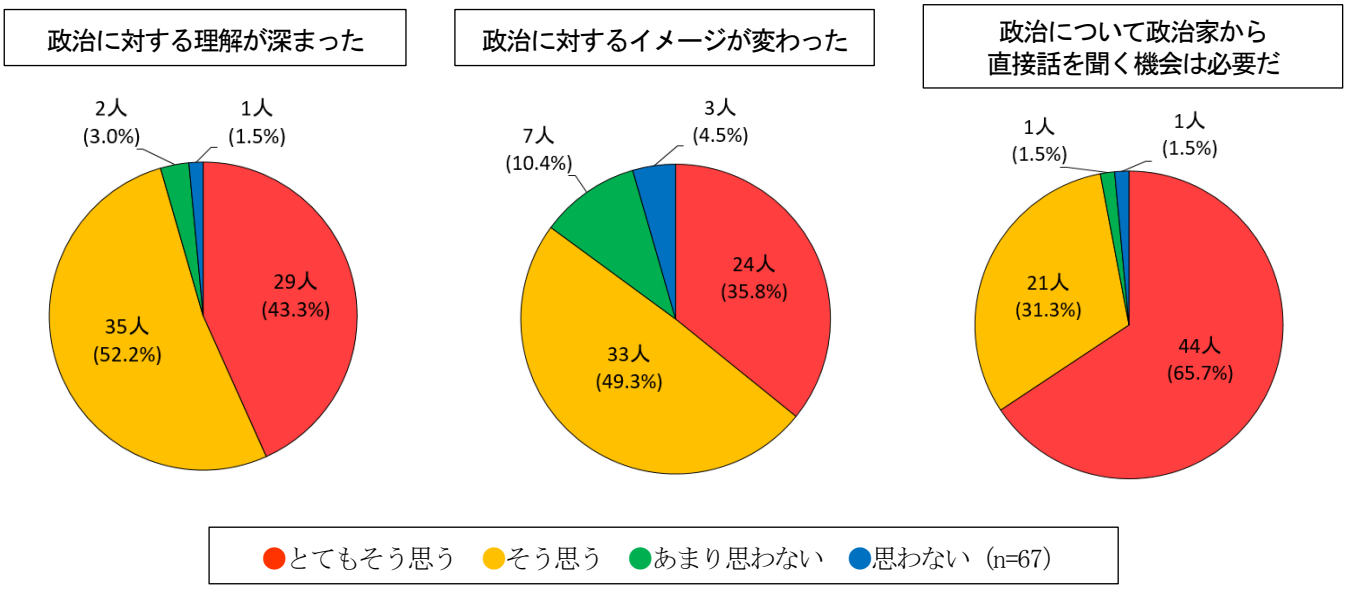


少数派の意見を取り入れるのはやはり大変なことだと思った。だからこそ根気よく意見を主張し続けることが結果につながると思った。



政治活動をしようと意識して行うものではなくて、暮らしの中にも政治は常にあるということが分かった。

○　授業後の生徒アンケート結果（抜粋）



ポイント2

インタビュー当日における質問の再構築

本時に向けた事前の準備同様、当日の授業の中でも生徒たちの意識・思考を深めるため、政治家へのインタビュータイムを２回に分け、合間に「どのような質問をして」「どのような回答が返ってきたか」を共有しました。この活動に加え、生徒は自身と政治家とのやり取りの中で、また他の生徒と政治家とのやり取りをそばで聞くことを通して、質問内容を修正・追加する様子が見られるなど、自分の考えを再構築することができました。

③　インタビューを終えて（事後の取組）

翌日の授業

○　前日の振り返りを生徒同士で共有する。



政治家によって言うことが全然違った！どの考え方に自分は共感できるか、という考え方もあると思った。

政治や政治家のイメージが変わった気がする。

例え方はちがったけど、考えてることは共通してる部分もあったよ。

自分が考えてた政治家のイメージと実際に話すのとは印象が違ってた。メディアによる印象操作もあるのかな？

○○さんの話ってそういう意味だったの!?違うようにとらえてた！

増税についてどう思うかとか、政党の考えや具体的な政策について聞けなかった部分もあった。

でも、あれだけの人たちが国民の意見に寄り添う感じで答えてるのに実現されないのはなぜ？

あの場にいた政治家の発言について、本当にそれが正しいか調べてみたいね。

単元まとめの授業

○　単元全体の学習を振り返り、「政治とは何か」をもう一度考える。



最終的に自分が考える政治のイメージについて第1時と同様にカードを使ってグループで話し合う

Before

はじめは政治家が決めたことを国民が守るイメージがあったから「指にとまるトンボ」の写真を選んだけど…







After

学習後は国民と政治家は対等で、互いに支え合わないと歩けないイメージから、「老夫婦」の写真にしたよ。

私が選んだカードは「スーパーボールすくい」。汲み取れてるものと汲み取れていないものがあるという現状もあるけど、国民一人ひとりが持っている意見を政治が汲み取ろうとしているから。





クラス全体で選んだカードの理由と、「政治とは何か」という問いに対する自分の考えを発表し合う

Ⅳ　研究協議



１．研究協議のテーマ
「政治家の意見や仲間の意見をもとに、生徒が自分の考えを再構築しようとする姿が見られたか」
２．成果と課題、参観者の意見

成果

・生徒が事前に質問を考え、他者との意見交換を繰り返すことで、考えが再構築されていた。
・本時までの学習により、生徒一人ひとりが高い意識をもって本時に臨んでいた。
・個人でインタビューの結果を整理する時間があったことで、生徒が思考を整理することができていた。
・生徒が自分達から遠い存在と捉えていた政治を、身近で「自分達のことを考えてくれている」と感じられるきっかけになる実践であった。

課題

・単元の中での、本時の活動の位置づけ（なぜ実際の政治家を呼んで行うか）をより明確にする必要がある。
・多面的・多角的に考えるためには、同じ質問を複数の政治家に聞く、授業での学びをより生かした質問を考える、といった工夫が必要である。
・根拠を基にして自分の考えを構築することが難しい生徒もいたため、本時において何を再構築するかを明確にする必要がある。
・自分の考えの変容や政治に対するイメージの変化をどのように共有するかについて工夫が必要である。
・政党や政策に関することや、政策テーマごとにインタビューしたり、身近な政治の場である市議会にスポットを当てることも考えられる。
⇒※本実践では、政治的中立性の確保の観点から、政治家には特定の政策や各政党の主義・主張に関する言及を控えるよう依頼している。また、生徒に近い市議会議員への参加依頼は行っていない。

Ⅴ　政治的中立性を確保するために

本実践を行うにあたって、授業者や実践協力校が最も配慮を要した点は、「政治的中立性の確保」といえる。この点について、教育基本法及び学習指導要領では、次のように示されている。

- 良識ある公民として必要な政治的教養は，教育上尊重されなければならない。
- 法律に定める学校は，特定の政党を支持し，又はこれに反対するための政治教育その他政治的活動をしてはならない。

（教育基本法　第 14 条（政治教育）より）

- 社会的事象については，生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示するよう配慮し，多様な見解のある事柄，未確定な事柄を取り上げる場合には，有益適切な教材に基づいて指導するとともに，特定の事柄を強調し過ぎたり，一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなどの偏った取扱いにより，生徒が多面的・多角的に考察したり，事実を客観的に捉え，公正に判断したりすることを妨げることのないよう留意すること。
- 第２の内容の指導に当たっては，教育基本法第 14 条及び第 15 条の規定に基づき，適切に行うよう特に慎重に配慮して，政治及び宗教に関する教育を行うものとする。

（中学校学習指導要領　第２章 第２節 社会 第３ 指導計画の作成と内容の取扱い ２の⑷および３より）

また、県教育委員会では、政治的教養を育む教育を実践するにあたり、政策や論争等、対立する見解がある現実社会の諸問題を取り扱うことは有効であると考えており、実践を行ううえでのポイントを次の２点にまとめている。

＜政治的中立性を確保するためのポイント＞
① 身の周りのできごとや現実の社会でおきている課題には様々な見方・考え方があることをふまえ、様々な見方・考え方を提示した指導を行いましょう。
② 多様な意見を引き出せるように、発問、資料、環境設定に配慮し、指導を行いましょう。

（「小・中学校における政治的教養を育む教育　指導資料」（平成 29 年３月　神奈川県教育委員会）より）

上記のことを踏まえ、本実践では、次のような流れでインタビュー当日に向けて準備を進めた。

時期	おもな動き
５月	・職員会議で実践について提案
７月	・逗子市教育委員会および県教育委員会に実施要項を提出 ・政党への依頼文書案の作成
９月	・各政党事務局に実施要項と依頼文書【資料３】を発出
10 月	・各政党から出席の可否、事前アンケート回答【資料１】が届く ★政治の単元の授業が開始（本時①）
11 月	・保護者へのお知らせを配付 ・講師に実施上の留意事項【資料４】を発出 ⇒　政治家と事前打合せ（電話、メール等） ★本時② ※授業前に参加する政治家全員と最終打合せ
12 月	・事後の取組

※実施の方向性の検討に当たっては、学校は市教育委員会等と随時打合せを行った。

※政党や保護者に発出する文書については、市教育委員会および県教育委員会が文案を確認した。

上記の流れの中で、本実践では次のポイントに留意して行った。

（１）講師の選定について
- 参加を依頼する政治家は、2022 年（令和４年）７月実施の参議院議員選挙に届け出た全ての政党（全 15 政党）に依頼し、出席の回答があった政党から代表者各１名とした。
- 本実践では、「政治とは何か」という広いテーマで話を聞くことをねらいとしたため、参加する政治家を議員に限定しなかった。また、事前に市教育委員会と市選挙管理委員会で相談の上、市議会議員は生徒に近すぎる存在であるとの判断から、市議会議員の参加依頼は行っていない。

（２）依頼の方法について
- 政治家への依頼は、学校から各政党事務局に依頼した。また、参加する政治家には、事前に趣旨、当日の発言内容等についての留意事項を説明し、共通理解を図った。（**【資料４】**参照）

（３）その他の留意点について
- 特定の政党の主義・主張を聞く場ではないという考えから、生徒には事前・当日ともに政治家の所属政党は伝えなかった。
- 政治家とのやり取りや授業にあたっては、市教育委員会と相談しながら進めた。（市教育委員会は必要に応じて県教育委員会や市選挙管理委員会に相談）

また、今後に向けてこの取組をさらに発展させるとともに、取り組みやすいものとすることが必要である。その実現のためには、次のことにも留意することが望まれる。

- 実際の政治について、生徒がより深く議論するために、各政党の主義・主張や具体的な政策について議論することが可能となるような方策を検討する必要がある。
- 様々な見解や主張がある事柄を取り上げる際は、必ず主張の異なる複数の政党に参加を呼び掛ける。
- 身近な地域の政治をテーマに扱うのであれば、例えば市町村の議会事務局を通して市町村議会議員に講師を依頼するなど、属性が共通する政治家に依頼することも考えられる。
- 実施の時期や依頼する政治家について、自治体の議会事務局や選挙管理委員会などの専門機関に相談することで、より政治的中立性の確保につながる。

【資料】

「政治とは何か？」（講師からの回答）

A 政治とは、困っている人がいたら、その人が安心して暮らせるように新しいルールを作ったり、これまでのルールを変更することです。例えば、私は男性として生まれたけれど、自分のことを女性だと思っていて、男性として生きることに苦しんでいました。同じように苦しんでいる人がたくさんいたため、性別を変えて生きることが出来るように、20年前、国会で新しいルールを作ってくれました。そのおかげで、私は今、女性として生きることが出来てとても幸せです。このように、一人でも多くの国民が幸せになれるように、国民の声に耳を澄ませ、これまでのルールに必要な修正を加えたり、新しいルールを作るのが政治だと思います。
B 政治とは、社会の中での権力や権利の分配、公共の利益を追求する過程、そしてコミュニティや国家の方針を決定する行為を指す。具体的には、誰がリーダーシップを持ち、どのような法律や規則が制定・実施されるか、さらには社会の資源がどのように分配されるかといった決定を伴う。政治は、異なる意見や利益を持つ人々が共存する中で、対話や交渉、時には対立を通じて合意を形成するプロセスでもある。このため、民主主義、専制、社会主義など、さまざまな政治体系や思想が存在する。また、政治は国家のレベルだけでなく、地域や組織、学校など日常生活のあらゆる場面で行われている。最終的には、政治の目的は社会の秩序を維持し、公平性や正義、安全性を追求することにある。
C 「政治」とは、社会のルールやしくみを策定するプロセスです。例えば、クラスの規則や部活動の活動計画を議論して決めることも「政治」の一つです。国会、立法府が担う「政治」とは、この国に住むすべての人が安心して生活できるよう、教育や医療、介護、福祉などのサービスをいつ誰にどのくらい提供するか、交通ルールや商取引のルール改正、貿易の重要なパートナーである海外諸国との外交、安全保障などを議論し、最後は多数決で決定するものです。人それぞれが異なる価値観や優先事項を持つため、議論を通じて互いの意見を尊重し、少数意見を切り捨てず、できるだけ多くの人々が納得できる結論を導き出すことが重要で、そのためにも議員は国民の多様なありかたを代表している必要があります。
D 平和を築くこと。一人ひとりの命、自由、その人らしさを何よりも大切にできるように、ルールを作り、税金の集め方や使い道を決めること。政治がその目的を達成するには、より多くの人々がルール作り、選挙に参加することが必要。
E 「日本」という国で生きていることが当たり前のようで当たり前ではない。「日本」という国が存在していることも当たり前のようで当たり前ではない。国や皆さんの暮らしている地域を存続していくためには、ルールやどうあるべきか方向性を決める必要がある。それを決めるのが政治。個人ではどうにもできない不幸がある。それを助ける仕事も政治。多くの人の意見を聴き、民意を反映しながら、民意の中に間違いがあったら、その間違いを指摘して、説得して、正しい方向にもっていくこと。「最大多数の幸福」を目指すこと。また政治とは未来の人のために水路をつくることでもある。多くの人に感謝をされる結果を作らなければいけない。

資料２（ワークシート）

0.「政治」という言葉のイメージに最も近いカードを選び、その理由を答えてください。

選んだカードとその理由	他者の政治に対するイメージ

1.【資料】から政治について ①わかったこと ②わからなかったこと ③疑問、質問 を考えてください。

①わかったこと	
自分	他者
②わからなかったこと	
自分	他者
③疑問、質問	
自分	他者

2. 当日、質問(インタビュー)してみたいことを考えてください。
(講師は必ずしも国会議員とは限りません。元議員、これから立候補する人等、立場は様々です。)

自分	他者

3. 当日インタビューしてみたいことを、フォームで回答してください。

組　　番　　氏名

資料３（各政党への依頼文書）※一部加工

2023 年（令和５年）９月 30 日

各位

逗子市立沼間中学校
校長　○○　○○

講師派遣について（依頼）

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび、本校では、下記の通り中学生が政治について学ぶことを目的とした授業を開催する運びとなりました。

つきましては、ご指導を賜りたく、講師を派遣してくださるようお願いいたします。
なお、本授業の目的の一つとして、「国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割に関心をもち、主体的に社会に関わろうとする態度を養うこと」を考えています。実施にあたっては、政治的中立性を確保する観点から、裏面の＜講師派遣に際してのお願い＞についてご理解いただきますようお願いいたします。

また、出席の可否については、10 月 13 日までに下記の回答フォームよりご回答をお願いいたします。併せて、アンケートへの回答が難しい場合もその旨ご連絡ください。

記

１．日　　時	2023 年（令和５年）11 月 30 日（木）13:35～15:25
事前打ち合わせ	2023 年（令和５年）11 月 30 日（木）13:00～13:30 （２階会議室）
２．場　　所	逗子市立沼間中学校体育館
３．対　　象	第３学年生徒 81 名
４．内　　容	政治とは何か
５．謝　　礼	なし（交通費も含む）
６．事前アンケート	・本授業の事前学習で使用する為、アンケートにご協力ください。 「政治とは何か？」を中学生に伝わるように 300 字以内でお答えください。 回答フォーム URL はメールに添付しています。
７．そ の 他	・本校は本年度、神奈川県教育委員会における「小・中学校における政治的教養を育む教育」の普及に向けた「実践協力校」となっています。ついては、当日の授業を、実践協力校連絡会委員、及び希望する教員等が参観することをご了承ください。 ・社会情勢等、諸般の事情により、開催日程が変更となる場合があることをあらかじめご了承ください。

＜講師派遣に際してのお願い＞

今回の政治について学ぶ授業については、政治的中立性の確保をより慎重に行いたいという思いから、大変失礼なこととは承知しておりますが、逗子市議会議員以外の方の講師派遣をお願い申し上げます。生徒や保護者、地域との距離が近く、つながりが強い逗子市議会議員の方に来ていただくことは、今後の双方の関係性における影響が大きいと考えております。

政党の皆様同様、「子どもたちに政治について興味・関心をもって欲しい」との思いからこの授業を今後も続けていきたいと思っています。そのためにも、対外的にも誤解を招かないよう慎重かつ丁寧に取組を重ねて参りたいと考えます。趣旨をご理解の上、ご理解の上、ご協力をよろしくお願い致します。

資料４（各政党宛て留意事項）※一部加工

2023.11.８
逗子市立沼間中学校
校長　○○　○○

≪本授業の趣旨≫

○　生徒が「政治とは何か」について学ぶこと。
○　国家社会の形成者として適切な政治的教養を養うこと。
※各政党の主義・主張について議論することを目的とした授業ではないことについて、ご理解ください。

≪ご留意いただきたい点≫

１．生徒に話をする内容については、あらかじめ学校に資料としてご提出をお願いします。
２．次のことは、控えていただくようお願いします。
・所属政党の主義・主張について話すこと
・具体的な投票行動や支持の呼びかけ
・特定の政党や候補者に対する投票行為を促したり、妨げたりする発言
・特定の政党や政治的団体等を支持またはこれに反対する発言
・生徒及び職員、参加者に政党の主張などが記された資料（パンフレット、チラシ、名刺等）を配布すること
・授業への参加前または参加後において、講師のSNSやホームページ、ブログ等インターネット上のメディア、及び機関紙等に、本校の取組に参加した旨を掲載すること
（学校名や市名を伏せた記載であってもご遠慮ください）
・校舎内で写真や動画の撮影を行うこと
※ただし、先日送付しました派遣依頼にも記載のとおり、本授業は神奈川県教育委員会の「小・中学校における政治的教養を育む教育」として位置付けられており、その記録のために県教育委員会が写真・動画を撮影したり、県教育委員会の取り組みの紹介の為、一部報道機関が入ったりする場合がありますことをご承知おきください。また、その際配慮が必要な点等ありましたら、お伝えください。
・その他、政治的中立性の確保の観点から、誤解を生じさせるおそれのある発言や行為

上記のことについては、事前に講師の皆様と打ち合わせを行い、共通理解を図りたいと考えています。
どうぞよろしくお願いします。

（参考） 教員及び生徒が留意すべき事柄および対処

○ 教員

１．中立かつ公正な立場でいること

２．特定の事柄を強調し、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げないこと

３．特定の見方や偏った取り扱いとならないようにすること

・提示する資料等については十分配慮する。一つの主張に誘導することを避け、生徒の議論が深まり、多様な見方、考え方ができるようにする。教育委員会等と連携し、適宜アドバイスを受ける。
・参加講師の名簿を作成する。講師名は50音順にし、それぞれの講師がどの政党に所属しているかは伏せることとする。
・事前の授業で授業の目的を明確にしておくとともに、留意点について説明し、そのことを理解して授業に臨む。多面的、多角的な視点で物事をとらえることができるようにする。
・事前に保護者に授業の趣旨等を通知する。ただし、保護者の参観は行わない。
・特定の政党についての言及があった場合は、事後学習の中で他の政党の考え方を例示するなどしながら、多様な見方や考え方があることを補足する。

○ 生徒

１．自由で対等な立場で発言できる

２．特定個人や団体の批判はしない

３．参加者は立場をこえて議論する

４．わかりやすい説明、お互いの心情への理解、基本的なモラルの遵守

５．客観的な事実の認識と、人の心情との理解を区別し、また、その両方に配慮する

沼間中学校社会科担当